

ユニークな
地質系博物館
(24)

根室市歴史と自然の資料館

猪熊 樹人¹⁾・添田 雄二²⁾

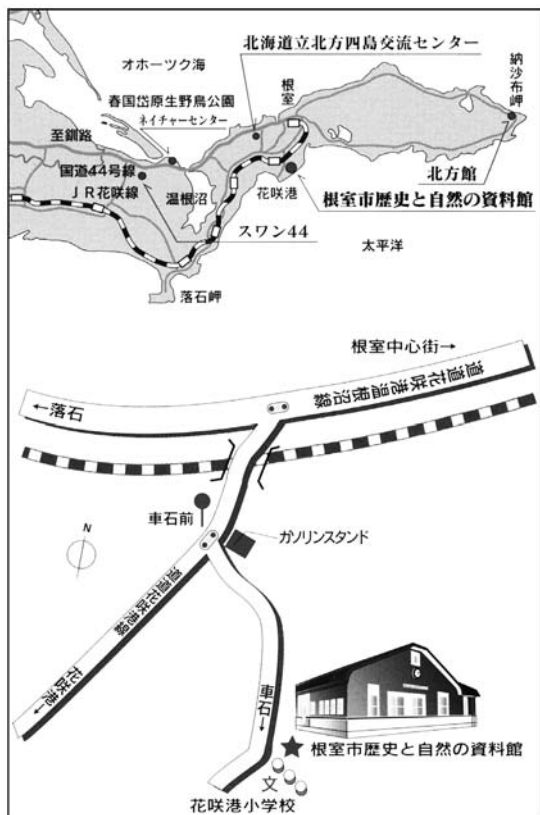
1. 博物館の概要

根室市は北海道の東端、北方領土が目前に迫る場所に位置し、日本で最も日の出が早い地域であることがよく知られている。根室市歴史と自然の資料館は、市街地から車で10分程度離れた根室市花咲港に所在する(第1図)。本館は、根室市の歴史と自然を対

象とした資料館であり、それまであった根室市郷土資料保存センターと根室市博物館開設準備室が一緒になり、平成16年10月1日からこの名称になった。

資料館の建物は赤レンガ造りであり、昭和17年建設の大湊海軍通信隊根室分遣所が保存・改築されて、平成16年10月から現在の根室市歴史と自然の資料館に生まれ変わった(第2図)。所蔵資料は大きく人文資料と自然資料で構成され、現在データベースに登録されている資料は2万6千点であり、これに未整理の資料や考古資料、図書資料を含めると9万点近くになる。

当館の地質関係資料は、教職の傍ら根室層群と岩石の研究を続けた吉元 豊氏が生前収集された岩石標本や地質関係蔵書が大半を占めている。このほかに各種団体や個人から寄贈された化石資料なども展示している(第3図)。また、これらの資料収集作業と同時に、根室市と周辺地域の歴史と自然の調査・研



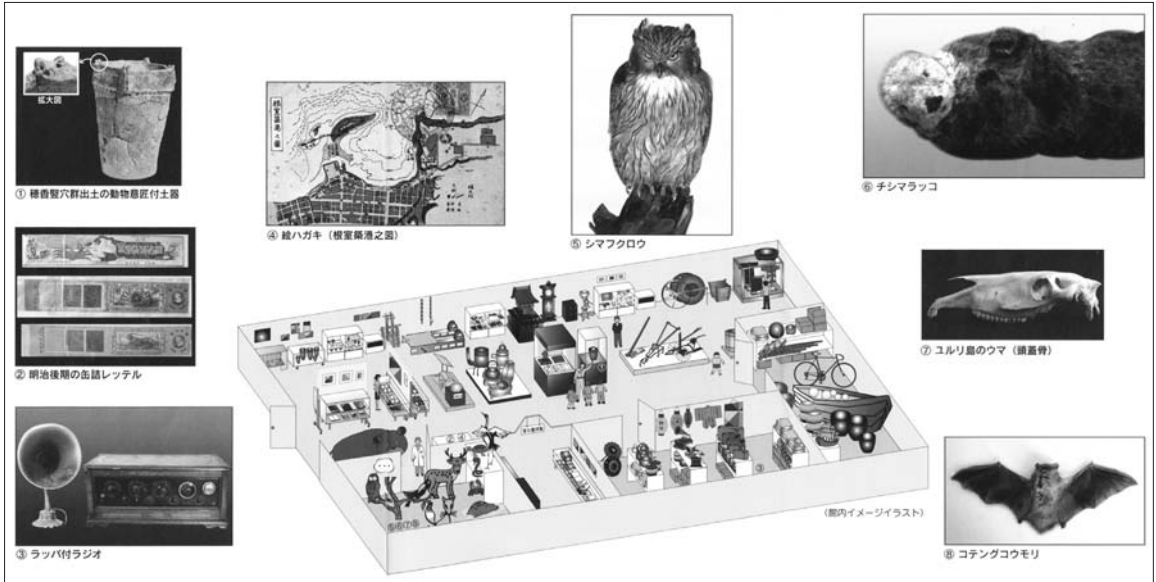
第1図 根室市および根室市歴史と自然の資料館の位置図。



第2図 根室市歴史と自然の資料館の外観。1942年に大湊海軍通信隊根室分遣所として建設されたレンガ造り建物を転用して建設された。

1) 根室市歴史と自然の資料館
〒087-0032北海道根室市花咲港209
2) 北海道開拓記念館

キーワード:北海道, 根室市, マンモス白歯, 根室車石



第3図 資料館内のイメージと代表的な展示物。

究の他、各種講座、観察会等の活動も積極的に行っている。

以下に本館の連絡先を記す。



開館時間 9:30～17:00(入館は16:30まで)

休館日 毎週月曜日・祝日・年末年始

入場料 無料

問い合わせ先

- ・住所：〒087-0032北海道根室市花咲港209
根室市歴史と自然の資料館
- ・電話：0153-25-3661
- ・E-mail：kyo_rekishi_gakugei@city.nemuro.hokkaido.jp
- ・http://www.marimo.or.jp/~n_city1/nemuro/jp/INFO/IFsisetu/kyoudo/main.html.



2. 地質学的な展示物と根室車石

館内の展示物の目玉としては、羅臼沖6マイルの海底に分布する中期更新世末(約20万年前)の地層から採取されたマンモス臼歯(種名：*Mammuthus primigenius* Blumenbach)がある(第4図)。これは armeniacus-primigenius 系列のものであり、また中国東北部の松花江sungari種と類似性が強いことも知ら



第4図 羅臼沖で採取されたマンモス臼歯(種名：*Mammuthus primigenius* Blumenbach)。

れている。マンモスゾウ系列の仲間は、鮮新世後期(約300万年前)に大移動を開始したが、中期更新世になると各地で適応進化が起こり、アルメニアゾウなどが出現し始めた。さらに中・後期更新世(約20万年頃)になると、ユーラシア大陸北部に寒冷地に適応したマンモスが登場し、ベーリング陸橋を越えて北アメリカへ進出するとともに宗谷陸橋を通過して北海道まで南下した。また、根室海峡の成立は8千年前頃であり、それまでは北海道と国後島は陸続きであったと推定されてきた。臼歯が発見された場所は水深120mであったが、最終氷期(約2万年前)において、この地はマンモスが生息する陸域であったことを明確に示している。

一方、根室半島の基盤は後期白亜系根室層群(約



第5図 「根室車石」の絵はがき。

7,500万年前)の海成層からなり、イノセラムス等の大型化石が多産する。また、本層群中には、本邦では珍しいアルカリ粗粒玄武岩の噴出や貫入も知られている。

資料館の近くの花咲港付近には、アルカリ粗粒玄武岩が放射状節理した半ドーム状の岩体(最大6m)があり、俗に「根室車石」とよばれ、根室市有数の観光名所となっている。「根室車石」はその奇観と大きさが珍しいことから、昭和14年に国の天然記念物に指定されているが、この指定には、当時根室の教育人であった長尾又六氏の尽力があった。

長尾氏の業績や「根室車石」の保存に対する活動は、大沼忠春氏らの論考が詳しい(大沼ほか, 2001)。長尾氏は考古遺物の大蒐集家として有名であり、自宅の一部を展示場として開放し記念絵葉書なども発行して、史跡名勝の保護と保存の重要性を訴えた。「根室車石」についても絵はがきを作製したり(第5図)、見学会を開いたりして保存と天然記念物指定への運動を行った。この一連の活動が結実し、「根室車石」は国の天然記念物に指定された。また当館に地質関係資料を寄贈して頂いた吉元 豊氏や松井信輝氏も教職の傍ら地質研究を行い、「根室市の自然と文化財」では市内の露頭を示しながら地質、岩石、化石などについてまとめている。(松井・吉元, 1987)。



第6図 平成17年10月15日、根室市民対象に行われた公開津波痕跡トレンチ調査の状況。

3. 最近の話題

このように以前から根室半島の地質研究は市民主導の調査や保存活動を通して精力的にすすめられてきた。近年では、過去に起こった地震による津波によって内陸部まで及んだ堆積物が市内の海岸付近に良好に保存されていることがわかり、その調査が関係諸機関によって行われている。平成17年10月15日には本館および北海道開拓記念館が中心となり、市民向けの講演会や津波堆積物の公開発掘が開催され、来るべき根室沖地震津波への注意を促している(第6図)。こうした中で当館でも堆積物の剥ぎ取りの展示など「根室の足元」を見直す展示を今後予定している。

謝辞：産総研・北海道産学官連携センターの中川 充シニアリサーチャー、ならびに地質ニュース編集担当の七山 太氏には、本稿を推敲するに辺り多数のご助言を頂いた。

引用文献

- 大沼忠春・川上 淳・佐々木寿雄・本田克代(2001)：「長尾又六氏の業績(1)」。根室市博物館開設準備室研究紀要，第15号37-68。
 松井信輝・吉元 豊(1987)：「根室市の地質および岩石」『根室市の自然と文化財』。根室市教育委員会1-41。

INOKUMA Shigeto and SOEDA Yuji (2005) : The Introduction of Nemuro City Museum of history and nature.

<受付：2005年11月18日>